

十年頃から大正十二年に至る十七年間に、日本全國に居ります娼妓の数は四萬八千二百二十六人で、此中他に傳染する程度の花柳病を持つて居る者は幾らかと調べますと、二割二分二厘となつて居る、外國とは非常な違ひであります。然るに昨年検査したところ人に傳染し得る程度の花柳病は二割と云ふ事に成つて居ります。私娼に就てはどうかと申しますと、是は明治四十五年に警視廳で木元第三部長の有名な調査で淺草千束町で調べました處では花柳病が八割一分五厘で有つたのであります。で大正二年一月には六割三分六厘に成つて居るのであります。それから一年経ちまして大正三年一月には五割三分八厘になつたのであります。で景氣が良い時には賣笑婦の律が多くなり、不景氣になると割合に少くなるので是は當然かと思ひます、大正二年に全國の警察で研究した時の花柳病の数はどれ位かと申すと八千名の中大正十二年には四千八百五十人と斯う云ふ割になつて居ります、で何れにしましても花柳病と云ふものは賣笑婦に多い殊に私娼が多い公娼の方が少いといふことになつて居ります。次に私は賣笑婦の取締及びその花柳病豫防に就いて簡単に、社會問題に關するものをお話してみたいと思ひます。

次に賣笑婦の取締の問題、廢娼運動、公娼廢止等は今日に於て賣笑婦といふものを認めてゐない賣笑問題と云ふものは人道主義からみれば誰でも賛成出来ない問題である。國家の憂ふべき問題である。で現在に於て廢娼主義をとつて居る國は、英國、オーストリー、デンマーク、スイス、スエーデン、北米合衆國などで廢娼主義の立法を執つて居るデンマークでは廢娼主義を取ると同時に花柳病の豫防を講じてゐる。要するに花柳病を豫防して賣笑婦の取締は形式的のものにして有ります。

又米國は何うでありますかと云へば、最初から賣笑婦と云ふものは法規の上に表れてゐない、が花柳病の豫防法と云ふものは出來てゐる、已みならず米國では妓樓と云ふものを認めて白奴賣買を防止する爲に妓樓と云ふものを作り住ませてゐると云ふ事になつてゐる。斯う云ふ様に外國の例を見ましても社會上取締と云ふものは色々考へられて居ります。

各方面の宗教團體、或は婦人團體、教化團體と云ふものから、人道上賣笑婦と云ふものが許すべからざるものである、お互に是を無いやうにしやうじやないかと云ふ御相談がある、けれど私は行政に従事して居るものとして篤と考へてゐるものである。私のところへ米國の婦人會の人や其の他有名な婦人方がしばしば訪ねて來られて膝詰談判に及ばれた事もある。そうして日本には吉原とか洲崎とか在ると云ふ事が不都合であると云つて是を無くする様にと云ふ御命令でありました。私は是が外國になく日本にばかりあると云ふならば兎も角、只人道上から斯う云ふ婦人の事を社會的に許すべからざるものであるから是をなくしやうと云ふ相談には一寸考へさせられる。外國人まで引ばつて來て膝詰

談判は恐れ入る。私は外國に是が無いとは云はせない。世界的にお互に廢止しやうでないかと云ふれば兎も角であるが、然しそれよりも花柳病をなくすると云ふ事が第一に必要な事と思はれる。我國では昨年春の議會に於て花柳病豫防法が初めて通過致しました、是れが永い間社會問題として研究されてゐたのであります、その間衛生調査會其他各方面の申告により、成るべく完全な者にして總ての方面の要求も入れたいと七八年も前から考へて來たのであります、實際問題として少なからず苦心を續け、理想的な上にも理想的に考へまして法文を構成しましたが實際問題として是を取締る上に理想と云ふものは現實的に行はれるものでない。御承知の通り簡単な花柳病豫防法案になつてしまつたのであります。花柳病豫防法案は出來たが、娼妓取締と云ふ點には何等關係ない一個の法律であります。

只其處で賣笑すると云ふ事は一つの存在である故に、他に傳波した場合を思ひ此の豫防法は相當有
功な方法であるといふことができる。それが根本になつて居ります。是が施行は矢張り娼妓だけであ
ります、娼妓と云ふ家業からして、藝者はやゝもすれば賣淫を行ひやすいと云ふ結果をもつて居ると
云ふだけである。理論的に成立してはいない。是が日本の豫防法の大體の立法の主旨であります。然し
現在形だけ出來て居れば要するに幾多の改正を加へる事が出来る。初めから完全なものを行なうと云

ふ事は無理で何處にも當りさはりの無いものを作つて置けば是れが割合に完全に近いものに成つて行
はれる。私は行政に携つて居りますので年々考へるので有りますが、行政は丁度水の上に船を浮べる
やうなものである。社會の思想の水平線が何處にあるかと考へて、此の水平線に船を出すのが行政の
すべてであると思はれます。

八

最後に花柳病の豫防方法に就てお話し致します、賣笑婦に對する衛生的取締りは勿論到底理想的に
行はるゝものではないが、さればとて放任するよりは不充分でも行ふを可とせなければならぬ、又
之と共に他面花柳病豫防に就ては社會的方策を考へねばならぬ、それには第一に青年期に於てなる
べく早く容易に結婚せしめ得るやうな手段を講ずること頗る必要であるが、之には經濟的事情を顧慮
しなければならぬのは勿論である、夫れと共に理想論としては結婚前に於ける健康證明書の相互提供
と云ふことも考へられる。又アルコール嗜好の豫防即ち禁酒獎勵、年少者保護施設の改善を行ひ、或
は未婚男女に對し花柳病の被害を理解せしむるやう智識の啓發をなし、又事情が許せば必要なる限度
に於て性的教育の端緒を開く機會を與ふことも考究されて居る加之に性慾方面の本能的衝動に苦し
めらる、年齢に達すれば成るべく室外に出で大いに快潤なる運動を獎勵し、身體に快い疲労を與へし

め、所謂小人閑居して不善をなすの機會を與ないやうにすべきである。

社會衛生的手段としては、先づ花柳病の危害に就て充分一般國民に理解せしめねばならぬ。次に危険なる性交をも避け得ない各個人に對しては個人的豫防を心得しむることも必要であらう。之にはコンドーム（所謂ルーデナツク等）の使用、及び化學的豫防劑（例へば滅菌劑を調合せる溶液又は軟膏殊に昇汞溶液或は三三パーセントの甘汞軟膏等）の使用であつて、前者は確實ではあるが快美感を阻害し、後者は大戦中、英、米、佛等の軍隊に使用されて相當の効果が認められたやうである。而して尙不幸にして本病に侵されたならば傳染力が無くなるまで根本的治療を受けしむるやう強制し得る制度を設くることは理想的である。

花柳病や賣笑婦に關する社會問題は、述べれば切りがありませんが、廢娼問題も今日仲々八釜しく唱へられて居ります、賣笑婦問題、所謂公娼廢止問題の起因は十九世紀の中葉英國のパトラー氏によつて提娼され、婦人と云へども一個の人間である、人間である以上は尊重しなければならぬ、で國家の法律をもつて斯う云ふことを許してゐてはいけない、ことに斯う云ふ婦人が國家の法律に據つて自由の權利を束縛されて良いと云ふ契約をすると云ふことは不都合である。又その行動は一定の區域に制限されると云ふのも不都合である、女として大切な貞操を強いて賣らせると云ふことも實に怪しか

らんことである。要するに何んでも此の法律の上から賣笑婦と云ふ字を取つて之を無くしなければならぬといふものであります。然しながら、もし實際に於て廢娼主義を採つたとしても、要するに個人の覺醒に待たなければ良好なる結果は得られないものである。然し人間の本能より觀ても現在之を廢止するといふことは却て惡影響を及ぼすものである。今日の實際問題として花柳病の豫防に力を致すことが第一であらうと存じます。

人間生れて性慾本能がある限り賣笑婦といふものは社會から無くする事は出來ない、三十余年間に及ぶ公娼廢止の歴史を有する群馬縣下に於て達摩屋なる密賣淫の跋扈は理想と現實との不一致を如實に物語つてゐる。廢娼問題に關して卒直なる私の意見を述べれば「社會を退歩せしめて人類を原始時代に歸すか、若くは社會を向上せしめて人類を悉く神に化するか、乃至は宇宙が終焉を告げ人類が化石するにあらずんば斷じて絶娼のユートピアは實現するものでない」といふことである。そこで賣笑婦は一種の共同便所的の存在として無くし得ないものと考へるのであります。

豫定の時間経過しましたから私の講演は此邊で切りあげようと思ひますが最後に申上げて置きたい事は、自己廣告ではありませんが私は此の問題に就て非常な苦心を重ねて研究をして居りますが、社會的にパンを得やうとしたものではないのであります、それで是非何か雑誌にでも書いて呉れとか、

又話をして呉れといふ人も有りますが、今日まで話をしたことも、雑誌に書いたことも無いのであります。

要するに賣笑婦といふものは社會の癌である、現今に於ては何うしても之を取除く事は出来ない。故に吾人は現狀に於ける合理的改善を急務としなければならぬのであります。今日は幸に諸君の如き特殊の地位に居られる方々でありますから、私は遺憾なき講演を試みたのであります（文責在記者）

思想講座

思想講座

新時代の精神

帝大教授 春山 作樹
文學博士

近頃思想問題と云ふものが、非常に喧しくなり、それに就いて、色々と面倒なことが起つてゐるのであります。自然貴下方にも其に關係して御用が多くなつて居ると思ひます。直にその新思想が悪いと云ふ風に解釋しても困まると思ひます。よく状況を調査して、眞に悪いと云ふ場合があれば兎も角輕率に斷定することは慎まなければならぬと思ひます。そこで私は悪思想といふ言葉を輕々しく使はないで、必要の場合に於ては、思想の混亂状態と申してゐます。國民思想に統一の缺けてゐるのは混亂状態に相違ないのであります。

この思想の混亂状態に對して、人々が何う云ふ態度をとつて居るかは私共よりも貴下方の方が職務

上却つて好く御存知であらうと思ひます。一部分の人は、自から種々の思想の中に入つて色々な活動をやつて居ります、その活動が往々不穩な態度に出まして、貴下方に御迷惑をかけると云ふこともあるのであります。それは所謂左傾の人々であります。又それに相對して右傾の思想があつてその仲間に入つて、矢張り色々な運動をやつてゐる人もある。其左傾右傾が相互に争つて世間に波瀾をひき起してゐます。爰にまた左傾とか右傾とかの仲間に入つて運動して居ると云ふ譯でなく、其等の人々の活動を傍から眺めてゐる人も澤山あります。數から云へばその方が寧ろ多いのであります。處がその眺めて居る人々のうちにも、矢張りよく見ると、やゝ左傾して居る人と、やゝ右傾して居る人とがあつて幾分か色彩が別かれて居るのであります。私共と平素接近して居る人達はどうかと申しますと、こゝにも色々な色分けがありますが先右傾でもなく、左傾でもなく、どちらの思想に對しても批判的態度を執つて右傾なり、左傾なりが國家社會の針路をあやまらうとする場合にそれを正しき道に導かなければならないと考へて努力して居る人が多いのであります。私は種々の社會教化團體に關係して居ますが、是等の團體に屬する人々のうちには、吾々の眞の同志で、右傾もしない、左傾もしない中正の道を歩んでゐる人が多いやうに見うけます。がその人々の中にも時としてはどちらかかと云へばやゝ右傾して居る人達もあります、其は私共よりも年長で今日六十歳に近いと云ふやうな人達に多いので

あります。

それで、さう云ふ人々から今日の思想混亂状態が批判される場合によくどうも今日の青年は危険な新思想にかぶれる者が多いといはれる。左傾派の中に青年の比較的多數であることは事實である。青年が思慮もなく只色々な思想主張に迷はされて、突飛なことを云つてゐるのは實際危険でもあるのであります。然し乍ら今日の青年全體がさうなつて居るかと云ふと、又さうでもない。青年のうちには右傾派も随分ある。それから又青年のうちには、右傾もしない、左傾もしない、吾々と同様中正の道を歩んでゐる人も、澤山あると云ふことを私は斷言します。私は新時代を看破し、我國家の正しく進むべき途を知つてゐるものは青年が危険思想にかぶれると心配してゐる右傾派の老人達でなく、寧ろ健全に中正の途を歩んでゐる青年であると感ずるのであります。

私共は種々の機會に於て青年に接して、思想の交換を行ひ、又勉めてさう云ふ人達の中に連絡を固くしたいと考へて居ます。

一部の老人達は、今日の青年がやゝもすれば左傾すると云つて、危険思想と青年とを譯もなく結び付け、同時に危険なものとは新思想と思つて居りますが、新思想必しも危険ではなく、舊思想必しも健全なものではないのであります。今日尙時代違ひの舊思想が相當に残つて居りまして其が我邦に既に

採用されてゐる各方面の制度と調和しない爲めに弊害を生じてゐることは一層多いのであります。今日はそれ等のことを少しお話しして、さうして新時代の精神が何う云ふ處になければならぬと云ふことを結論として申して見やうと思ひます。

昨年十二月の半頃でありましたが、私は外の會の席で「隠れたる舊思想」と云ふ演題のもとに一時間ばかり講演をいたしました。その時に事實をあげて、現代社會に於て、不相應な古い思想が残つて居ると云ふことを、幾つも／＼指摘して置いたのであります。今日お話しする順として、その一例を述べませう。昔漢學が盛んに行はれて、漢學塾が重要な教育機關として活動して居りました時代に於ては、孔孟の教を元としてゐたことは勿論であります。

その説いて居たことは今日の所謂過激思想とは、全く縁の遠いものでありましたが、その時代漢學塾の先生も學生も、孔子、孟子と申せば無上に尊いものと信じてゐました。孟子は多少議論の種ともなりましたが、孔子に至つては聖人として、完全なもので批判の上に立つものと考へて居りました。何でも孔孟の説、殊に孔子の教と云へば最高のものであつて、それに對しては議論の餘地がないと考へて居りました。貴下方も御承知の通り孔孟の教は比較的健全なものでありましたが、其を本とした我が國の教育も餘り弊害はなかつたのであります。それで社會は健全に進んで行つたのでありま

す、然し乍らそれに對しても、國學者達は支那の教へをその儘、我が國に持つて來ると云ふことは、日本國民としては正しき道ではない。日本人は日本人の魂を持つて進んで行かなければならぬ。學問と云へば、我が國の學問でなければならぬ。然るに斯の如き風に考へて居るのは間違つて居ると云つたのであります。

孔孟の教は今日の危険思想と比較すべきものでなく、穩健なものでありましたが、それに對する漢學者、漢學生の態度は自覺を缺いてゐたものといはなければなりません。孔子孟子といへば一も二もなく跪いてそのお教へを受くると云ふのは無批判と云ふ非難を免かれなかつたのであります。我が國民の思想上に於て、一つの大きな缺點は無批判的であると云ふことであります。批判的にものを考へない、と云ふことが一つの大きな缺點であります。御承知の通り明治の初年から今日まで、色々な學說或は思想が外國から輸入されて來ました。それに對して、世人は一向批判しない。これは西洋の最近の學說であるさうだと云ふ風に教へられると、成る程さうかと思ふ。其うち社會がだんだん變つて來て、最早や孔孟の教は貴ばれなくなつた。今もその代りに何かを求めてゐるのであります。今度は西洋思想を批判しないで受入れる。そこで色々な説が譯もなく、我が國に入つて、社會が騒がしくなると云ふことになつた。今日のあの左傾派の人々のやつて居りますことは、老人達から見

ると、どうも怪しからの事ばかりであるに相違ないのであります。思想の内容から見ると非常に孔孟の教とは違つてゐる。しかし精神的態度の上から見ますと昔の漢學塾の先生なり、學生なりの云つて居つたことと今日の左傾青年とは餘り違はないのであります。何處が違はないかと申しますと、昔の漢學塾の先生又學生は孔孟の説と云へば、膝を正して聴くと云ふ位で、その前には一切の批判の餘地がないと考へて居たのであります。その態度は今日の左傾青年の心持と全く變りがないのであります。今の青年はマルクスとかレーニンと云へば一も二もなく頭を下げてしまひ、その前に一切の異論は力がないものとしてゐるのであります。その態度はちつとも昔と違はない。

でさう云ふ譯で、老人も青年も我が國の歴史又國情に基きて社會の改良をしようと云ふ態度をとらないのであります。我邦の現實な社會生活にも餘り注意しないでマルクスの言を動かさない出發點としてそれから問題を説く。左傾派の人々の間にも議論が起つてゐる。同志の間でも意見の一致しない處が起つてゐる。しかしそれは社會の内情を本とした見解の相違ではなく、只互に君の説はマルクスの説を誤解したものであると云ふ風な議論をして居る。マルクス自身の説が正しいか正しくないかは問題としてゐない。これが昔の漢學塾と變りのない處で、所謂流行の思想を無批判に受入れる。さう云ふ氣持が今の青年の頭の奥底に浸み込んでゐるのであります。今の左傾學生と昔の漢學先生とは非常に違ふ

が、それは孔孟の代にマルクスとか、レーニンとかを本尊として居ると云ふばかりの違であります。無批判の點は同一で、而も其無批判的態度は儒教々育に淵源するのであります。

昨年以來に支那の南北兩派が仲々面刃になつて、その問題は今日尙残つてゐる。それを我が國の人が見ますと、いつまで内輪喧嘩をやつて居るのだと誰でも申します。成る程それはその通りでありますけれども、又よく考へると翻つて我が國に於てもあれに類したものがあはしなうでしょうか。私は支那のことばかりをあまり非難する事は出来なかつたかと思ひます。と申しますのは我が國に於て、議會政治が行はれ、相當の年數も経て居りますが、果してうまく行はれて居りますか。私は非常に心細くなつて來るのであります。我々の目に映する處は黨争の弊ばかりであります。而も其黨争は主義の争ではなく利權の争である。今日ではどの黨派も吾が黨内閣になつたなればかう云ふ政策を實行するといふ様なことはあまり言はない。在野黨の時分に、あまり氣焰を揚げて居ても、一度内閣を取つてしまへば、その通りに行かないから、最初からあまり騒がないのであります。其處で主義の争でなくなる、愈々内閣に立つとなると吾が黨の爲のみ謀るといふことになりません。之れが果して立憲政治の本意でありませうか。それが本意であると云ふ人は一人もないのであります。處がどの政黨も絶えずそれを繰り返して居ることは御承知の通りであります。地方の府縣會でも又市町村會でも、同じ様な

ことをやつて居る。さう云ふ状態ですから、地方自治の精神など云ふ事は全く忘れられた様になつてゐる。さう云ふ弊害を現在尙取り除くことの出来ないことと云ふ事は誠に嘆げかたしいことでもあります。一體その原因は何處にあるかそれは舊思想だと私は思ひます。

眞面目に考へられた政策上の主義が一致しない處から、自然に政争が起つて來ると云ふことなら、止むを得ないけれども、今日の様に只政權争奪のみ事としてゐるのは、戰國時代と餘りかはらないと思ふ。元龜天正頃の英雄は天子將軍を挟んで天下に號令する爲めに京都に出る口を開かうと、一生懸命でやつてゐたが、其は自分の權勢慾から出たので、戰亂を平定し萬民塗炭の苦を救ふといふ慈悲心から出たものではなかつた。中には天下平定といふ大志もなく、只少しでも自分の領土を擴げやうとして居た小野心家もあつた。徳川家康とか豊臣秀吉とか云ふ偉い人は、統一的の國家を建設し蒼生を安んずるといふ考もあつたでしょう。家康又秀吉の様な人は我々に取つて恩人であるけれども、只あくまで領土擴張を目的とし尙十萬石殖さうなど考へてゐた人は英雄ともいはれない。一種の利己主義な野心家で國民には敵であります。今日の政治家にも國家の爲國民の爲を考へてゐる偉い人もあるでしょうけれども、多數は昔の武將が自分の領土を擴めることをのみ考へてゐた様に、權勢を終極の目的とするか、若くは政争を一種の勝負事として、只何となく面白いから、碁將棋をする様な氣持で政争に

没頭してゐるのであります。故に私はこれを元龜天正時代の舊思想の遺物だと申すのであります。

又政争に對する國民の態度が甚いけない。かの大坂冬の陣は、それは天下分目の争で徳川勝つか或は豊臣勝つかと云ふ大事な場合であつた。その時國民はその戰をどう云ふ風に見てゐたか、と申せば中には種々の關係からどちらかに同情するものがあつたでしょう。しかし國民の多數は國技館の相撲かベースボールの仕合を見る様に、大仕懸な勝負事として只眺めてゐたこと、想はれる。少くとも大阪城下の市民の様に直接の利害關係を有してゐるもの、外はさうであつたらしい。今日の日本人は矢張りそれと同じであります。今日の國民は頽廢した政争を只茫然として見てゐてよいと云ふ譯のものではない。其處にもつと眞面目な注意を向けなければならぬのであります。甲黨の政策が行はれたらどうであらうか、乙派の政策が行はれたらどうであらうか、其は國民各自の生活上の問題である譯であります。大阪の陣の様に徳川勝つか、豊臣勝つかと只眺めてゐるべきものではない。昔ならば豊臣の天下になつても徳川の天下になつても、平民の生活には變りはなかつたかもしれない。又どちらの天下にするといふことも自分達には出来なかつた。然るに今日は政友會が勝つか民政黨が勝つかによつて、吾々の生活上に變動が起つて來るのである。又どちらに勝たせるかは自分達の手で定まるのである。國民は「清き一票」を投ずることが出来る。其は一票であるけれども其一票が集まつて天下

の大勢を左右するのである。選挙に棄権する者の多いのは愛まで考へないからであります。つまり國民が無自覚なのであります。次の總選挙には政友會が勝つか民政黨が勝つかなど、よそごとの様に、丁度次の野球試合に慶應が勝つか明治が勝つかといった様な調子で話してゐる人が多い。是等の人は大阪陣をよそごとに見てゐた元和の昔の日本人と同様です。天正時代の武將の様な政治家と元和時代の平民の様な國民とでは代議政治も地方自治もよく行はれる筈がない。故に私は時弊の原因は舊思想であると申すのであります。

この弊害を除くには國民全體の自覺を高めなければならぬ。其には今日の時代と制度を十分に理解せしめなければならぬ。小學校兒童に愛市の精神を涵養する方法といふことが嘗てある市で問題となつたとき、ある校長は自から立案した方法を書いて私に示されました。その案には斯う云ふことが書いてありました。兒童をして市を愛せしめやうとするならば、市民も亦市民を愛せしめなければならぬ。其爲には市税の負擔を軽くしなければならぬ。交通機關を完全にし、娛樂機關の設備、上下水道を今日以上に完全にしなければならぬといつた様なことが列記せられてありました。そこで私は先づ、その市と云ふのは何ですか、と問ふて見ました、すると市は市ですと答へた、これでは判りません。もつと詳しく説明出来なですかと、かう云つて見ますと、黙つて居るのです。それでは私が

代つて、貴下の云つてゐる市と云ふものを説明してみませうか、貴下の市といふのは市長、助役、市會議員、參事會員等を指すのでしようといふと、其通だといふことでした。其處で私は市といふのは自分をも含んだ市民の全體のことである。或は其の全體の集合意志といつた方がよいかも知れない。市長、助役、市會、市參事會は、市の機關であつて市ではない。市と市民との關係は全體と部分の關係であることを第一に考へなければならぬと申したのであります。よく考へると愛にも舊思想が累をなしてゐるれとを發見します。領主は百姓町人を愛護して下さる。故に百姓町人は領主の掟を守り年貢を納めて其恩に報ひなければならぬ。武士は領主から祿を賜つて生を營んでゐる。故に其恩に酬ひる爲めに事ある日は君の馬前で討死する覺悟でなければならぬと、保護と報恩の觀念で結合された封建時代の思想が残つてゐるのです。何でも殿様目當てに考へてゐた思想では、市を考へる場合にも何か具體的の人格を目標にしなければならなかつたので、市長助役等を殿様の代にして見た譯なので、公共團體といふ具體的な自然人格でないものを考へることが出来なかつたのです。その先生の意見の様に交通機關の改善とか、娛樂機關の設備とかをすれば、非常に澤山の金が入る。市税を少くしたなれば、何處からそれ等の改善、設備等に要する金が出来るか、と云ふ事を考へて來ますと、どうにも仕様がなないのであります。其を尋ねると先生は黙つてゐました。其は自分の立場からは説明が

出来ないからです。市と市民とは全體と部分の関係ですから、市税を軽くする爲には市の事業をひかへなければならず、事業が是非必要なれば市民は増税を覺悟しなければならない譯です。

時としては市税が重いに拘らず、市の事業が擧つてゐないこともありませう。其時はむだな所に金が使はれてゐるのです。いづれにしても豫算上の問題です。故に市民は豫算上に於ていづれの主義をとるかを自から決定して、市をして實行せしめなければならず、又實行せしめ得る譯です。其は自分と同意見の人に投票して市會に送ることも出来、また市民間に輿論を起して外部から市會を刺激することも出来るからです。其を考へないで自分を離して市長助役等に向ひ側に立たせ、之を市と考へ之に對して市税軽減と同時に事業の振興といつた様な兩立しない要求を出す様では公共團體の性質がよく解かつてゐるといふことは出来ない。しかし私には此校長が何故斯様に考へたかはよくわかりません。封建時代には領主の臺所と藩の財政との間に區別が立つてゐなかつた。又領主が贅澤をする爲めに百姓の負擔を重くし、又人民の爲めに必要な事業を怠ることが多かつた。故に領主は自分の入費を少くして、年貢を軽くし、又人民の爲めに必要なたとへば河川工事等には金を吝まさない様にしなければならぬといふ教訓が常に説かれてゐた。校長の考は之から出てゐるのです。今日では市長の家計と市の財政とは別ですから之も亦時代に適しない舊思想であります。是等に類する例は無限にありま

すが、先此位にして結論に入ることに致します。

今日の時代がうまく行かないと云ふのは、一方には新思想が方々から入つて來ましてそれが青年達を過激ならしめると同時に、老人が非常に時代違ひの思想を、新しい制度に當嵌めてやつて居る處から起ります。この新思想と舊思想とを批判し、中正の途を執つて行くのが、私の所謂新時代の精神なのであります。

それで今日の時代に於て何が必要であるかと申しますと、新時代の制度を運用するには、其に適當した精神態度と云ふことが最も大切だと思ひます。昨年衆議院議員選舉法に改正が加へられました、所謂普選が次の總選舉から行はれることになりました爲に、俄に全國に普通選舉準備の教化運動が盛んに行はれてゐます。普通選舉に必要な準備の教化運動はどう云ふ工合にやつてよいか。これは重要な問題であると思ひます。選舉法の改正になつたことを先づ理解させ、それから選舉取締法を説明してみせることも勿論必要でありませうけれど、其れだけでは十分でないと思ひます。今申しました様に、よく制度の精神を求めて其に適した態度を國民全體にとらしめなければならぬ。其處が非常に大切な事だと考へます。一體政治と云ふものは何を意味して居るか是には色々な解釋がありませうが、私は一の常識的な解釋を試みやうと思ひます。

代議政治もある、或は専制政治もあるが、如何なる場合に於ても、國民全體の目的を全體で成し遂げる様にするのが政治であります。處が一般の民衆の頭が、進んでゐない時には、一部の先覺者に依つて導かれて行く、さう云ふ時代には専制政治も亦、止むを得ないのであります。一部の人は理解してゐるけれども、一般民衆が自覺して居ない場合には、その人達の考へで政治をやつて行く、さうして他の者は權力に依つて服従させられて行くより外に仕方がないのであります。しかし國民の自覺が進めば參政権を興へるのが至當であります。貴下方も御承知でありませうが、露國の現在の勞農政府は、事實極端な専制政治でありますが、それは別問題として伊太利のムツソリーニの如きも、自分の黨派の者のみを議會に入れてゐるのであります。何でも自分の思ふ様な専制政治をやつてゐるのであります。それでやり方は亂暴ながら立派な政治をやつてゐるのであります。但し私はこれはよいとは思ひません。政治の良否は形の上から見ることは出来ないであります。又形はともかく實際がよければよいがと申されません。形式と實質と兩方から見なければなりません。

處が我が國は國民の平均的自覺が進んだ爲めではなく、寧ろ世界の大勢に動かされて代議政治又地方自治を行ふことになつた。故に制度は立派であるが、之を運用するに必要な精神的態度を國民はもつてゐない。政黨内閣普通選挙と形ばかり進んで來たが、政治の實質は甚よくない。故に國民を訓練し

て、必要な精神的態度をもつ様にし、之に伴つて政治の實質が改善せられる様にならなければならぬ。そこで公民教育の聲が盛になつたのであります。公民教育の問題が、八釜しくなつて來たのは我國ばかりではありません。獨逸では從來も公民教育の必要は論せられてゐたが小學校の課程に公民科と云ふものは無かつた。が、然るに最近平民學校の課程に入れる事になりました。殊に米國などは、この兩三年前から、公民教育問題が非常に八釜しくなつて居ります。何れの場合に於ても、個人の公共に對する責任感を興へることに重きを置いて居ります。

公民教育を盛にして國民の精神的態度を適當に作り上げる目標は何處に置くかといへば、つまり今上陛下御踐祚の後朝見の御儀に際し賜はりました勅語にあります。舉國一體共存共榮と申すことを理解徹底せしめることに外ならないのであります。國民全體の理想とする所を國民全體の協力と分業によつて成遂げる様に各人の努力を統制するのが政治の働きでありまして、國民は常に國家の問題を國家全體の立場から考へ、其爲めに自分のしななければならぬものを知り、又之を實行し其によつて全體が共存共榮しなければならぬ。一人でも其なすべき所を誤れば全體は其だけ妨を受ける譯で各個人は共存共榮に對して連帶の責任をもつてゐるのであります。

現今の政界には種々な忌まはしい事件が起ります。其は直接には政治家がわるいのですが、その

みを責めることは出来ないであります。此はたしかに國民連帯の責任であります。政治家が何故に不正をするかといへば、選挙人が投票の神聖をしない爲めに金をとつて投票するものがある。政治家としては運動費が法外にかゝる。政治家の財源は無盡蔵ではない。勢當選してから個人として又は黨として不正なことをする様になる。或は自から利権を漁り、或は富豪の手足となつて不正な運動の援助して運動費にあてることになる。故に政治的犯罪の多いのは國民の罪であります。國民が自覺しない間は金銭又は情實によつて投票が行はれる。其につれて政治運動には所謂、職業的政治家のみが關係し、眞面目な人は政治に遠ざかつて来る。これを又眞面目な投票者から見れば自分の信頼すべき候補者は自分の選挙区にはないといふことになる。どの候補者も氣に入らないと云つて、棄権する人も出来る。有識階級に棄権者が多いのは此理由から来るのである。

又今日デモクラシーなど云つて、騒いで居る人達の中には、どうかすると、只平等とか自由とか八差しく云つて服従の必要を忘れてゐるものがある。デモクラシーの社會にも、指導者は必要であります。又服従も必要であります。只專制時代には一部の特權者が、權力に依つて多數の者を服従させてゐたのでありまして、其は今日とは違ふ。けれども今日も矢張り指導者は必要であります。社會の指導者は國民に對して先づ向ふべき理想を示して理解を求める。是は思想家の仕事である。國民は之

を批判して賛否を定める。國民多數の賛同する理想が立つて来れば、之を實現する爲めに國民をまとめなければならぬ。この意味に於て國民を指導する者は政治家である。國民は理解をした場合には思想家の意見に服従し、又政治家の統制にも服従する。それでなければ舉國一體とはならない。只權力に屈從するのではなく、理解に本づき自發的に服従し、批判の自由を有することが專制時代と違ふのである。デモクラシーは理解に訴へる政治である。今日若し何かの改革意見を有するものがあるならば之を國民全體に訴へ、理解を求め、多數賛成者を得て、議會を通過せしめるといふ方法をとらなければならぬ。故に理解に訴へる政治といふものである。今日の政治家には權謀はいらない。權謀を事とするは舊式政治家である。もし又暴力に訴へて意志を貫かうとすれば、所謂直接行動で忽諸君に迷惑をかける。然るに今日猶權謀を以て政治家の本領としたり、暴力暗殺等によつて改革を企てたりする舊式な人間があるので困る。

困つたことには支那及我邦には惡人が勢を得るときには天に代つて之を誅すると云ふ思想がある。之は今日の様に憲法に言論集會結社の自由が認められ、國民に參政權が與へられ司法の神聖が保證されてゐる時代に於ては、許すべからざるものである。我々には常に合法的に行動して、政治經濟の組織改造も、既成の秩序の中から合法的に生れて來なければならぬ。この精神がよく理解されなければ

ば、舉國一體共存共榮に對する連帶の責任といふことも理解されてゐないのである。

要するに新時代の精神とは舉國一體共存共榮の意味で、國民がよくこの精神を體し、思想家政治家の意見をよくきき、國家全體の立場から冷靜公平に批判し、自分の意見を定め、權勢金錢情實に動かされず、眞に自分の信ずる人に對して「清き一票」を投じなければ今の政界の惡弊は除かれない。其精神を國民全體に徹底せしめることが、公民教育であり、又普選に對する眞の準備である。選挙取締法を説明しても其の末にとらはれて精神に觸れなければ何の益もない。

私は來るべき普選の第一回實施に際して、新法の精神の十分發揮せられることを切望するのであります。其は諸君の職務に重大な關係のあるものですが、諸君は自覺したる新時代の警察官である。諸君は國家の官吏で、政府黨の使用人ではない。政府黨と反對黨との間に差別的取扱をするが如きは諸君の上官と雖も諸君に命令し得ないのである。私は諸君が選挙に際し嚴正公平な態度を執られることを固く信じ、其點に於ては全く安心してゐます。二時間半と云ふ事で御座いますから、此れで失禮致します。

趣味講座

趣味講座

日本民謡の特質と國民性

吉田 二郎

私はこの數年來各地の夏季大學に招かれて民謡に關する講演並に實演をやつて來た者であります。また一般には民謡に對する理解が缺けて居る爲めかくして、夏季大學の主催者の中には民謡をば餘興扱ひにして、言はゞ夏季の炎暑にむつかしい講演を聴かした後にお茶受けを出すと云つた風な場合にも遭遇して甚しく心持を悪くしたこともあり。さうした夏季大學などいふものは、その主催者が特利本位の興行師の頭でやるものも多く、現にこの夏も茨城縣下の大洗夏季大學が慥うした不所存者が主催者であつたが爲めに不快な氣持で講演を始終したやうな次第でありました。この警察夏季大學は諸君御承知の如く、警察行政研究會の方々が奉仕的の事業でありますし、且は聽講生諸君の大半の方々が其の職務の性質上、平素の生活が見角清懐味に乏しい——即ちうるほひがない——そこで講座の中に趣味講座を設けて、私に講演をやらせようといふのが主催者の主旨である、慥う信じたので私も喜んでこの演壇に立つた次第であります。

自然の本性と民謡の定調

私の演題は「日本民謡の特質と國民性」となつて居りまして、なか／＼八釜しい題目であります。が限られた時間でこの題目を徹底的にお話することは困難でありますから、成るだけ簡明直截に申

上げて断片的でも一つの纏りをつけたいと思ひます。それですから勢ひ舌の廻轉も全速力とならざるを得ません、どうぞ其のおつもりでお聴取りを願ひます。近來日本民謡の研究が盛んになつて参りまして、之が聴取者は地方よりも都會——殊に東京を中心にして東北方面の小都會に多いのであります。従つて東京市内だけで追分節の會が三十もあつて歌ひ手が千人もあらうといふ賑ひさであります。東京中央放送局に於ても演藝プログラムに民謡を編入することに可なりの努力を致して居ります。唯だ感心されないことは、日本民謡に對しては「俚謡」といふ文字を使用して、西洋音樂の聲樂家が歌ふ場合には「民謡」の文字を使用することである。この文字の使用差別は何を根據として爲されたものか判断に苦しむ次第であります。想ふに在來の日本民謡の歌ひ手の多くは只だ小器用の聲自慢や自稱名人で、俗受けのする唄を歌ふことばかりを念とするが爲めに、其の唄は卑俗に流れて民謡本來の定調を失つて居ることが、放送局のプロ編成者をして民謡など、改まつた文字を冠すべき筋合のものではなく、さりとて俗謡としたのでは氣の毒とあつて中間の俚謡としたのであらうと思はれる。何分にも世間の多くの人達からは民謡と云へば、すぐ俗謡かと軽く扱はれるのが日本民謡の現在の地位であります。併し之れは、日本民謡の發生の由來を知らざる人が、よき民謡を聴く機会をもたなかつた爲めに慫うした民謡と俗謡の混同を來したのであります。これにつきまして私はも二つのよい實例を

お話し致しますが——それは本年の夏の初めであります。東京市の主催で日比谷公園の音樂堂で、日本民謡大會があることを新聞紙の催物欄で見まして、私は某日、東京市役所公園課の音樂主任とか係員とかの一吏員に面會致しまして、日本民謡大會のプログラムを拜見したいと申入れましたところ、吏員の曰く「日本民謡大會といつても在來の日本民謡ではない、洋樂の新民謡である。在來の日本の民謡は音樂的には何の價値もない、第一に發聲そのものが本當の聲でなく裏聲で歌ふから駄目である」との御意見でありました。慫うした盲目的な西洋音樂の心酔者が東京市の音樂主任となつてゐる、途方もない獨斷を下して在來の民謡を片づけて了ふのだから、一般の人が民謡を軽く扱ふのも無理がないと嘆じたことでもあります。私は慫ういふお方に考へて頂きたい、日本の民謡は何處から生れたかといふことでもあります。我國に於ける眞の民謡——よき民謡は大自然の懷ろから生れたものであります。私は民謡の歌ひ手として例へば海邊の民謡をうたふ時には、いつも大洋の姿や濤の音を觀念に喚び起すのが常であります。大洋の浪の音は、それが暴風雨の時の狂瀾怒濤の叫びでありまして、怒濤の響きには一定のリズムがあります。これは大都會の巷——東京の銀座尾張町や須田町に起る亂雜のどよめきとはちがひまして、私達の混亂した神經に定調を與へてくれるところの、大自然がかなづる永久不變の表現樂であります。そして又、平穩な時の大洋の浪の音とてもリズムに於ては何の變りか

ない、只だリズムの高低強弱があるばかりであります。海邊に生れた民謡のよきものは大洋の浪の音の如く、いかなる變亂を通じても常に定調を失はぬところの自然の法則を曲節の基調として取入れて居ります。この曲節の基調を失はぬ限り、この定調を外さぬ限りに於て、歌ひ手の聲は決して裏聲やカツの聲などであらば、たはれるものではないのであります。また山間や平原の間から生れた民謡も、そのよきものは必ずや自然の定調を曲節の基調としてうたはれて居る——大森林に風が奏する靈妙の曲、瀧つ瀬のむせび、幽鳥の囀づりなどがみなそれでありませう。

かくして其の幾時代を経て洗練されたよき民謡は、その歌詞の内容價值、主題曲節によりまして、地方色は元より時代民情、時代風俗をハツキリと知ることが出来ます。又これを綜合大觀して考察いたしますれば我國民性の特徴を掴むことも出来るのであります。即ち民謡の特質は國民性の特徴によつて價值づけられたものであることも知られるのであります。

凡そ國家の隆盛、國民の發達——政治經濟學問藝術等——展開はこの國民の特徴を措いて考へることは出来ないであります。この特性を發展させることの出来なかつた國民はいづれの方面にも雄大なる活動を成し遂げてゐないのであります。今私は日本民謡の特質を求めて我國民性を考へて見ますと、第一に我國民性は建國の昔より直觀に長じてゐるといふことを思ふのであります。それは自然

に對する見方考へ方が常に直觀的でありまして、一々細かに物の性質を考へ推理によつて物の本質に及ぶのでなくして、物の全體からして直觀によつて其の本質を掴まうとするのが我國民の一特性であると思ふのであります。この特性が疑つては建國の精神となり發しては國體の精華となつて今日の雄大を致したものでないでせうか。それですから我が國體にしましても、現代に至り之が合理的説明を必要とするやうになりました、學者の間にはいふと理論的證議が行はれて居りますが、その本源に溯つて考へて見ますれば、之とても我國民の特性たる直觀によつて、大自然の本質に徹したる詩的民族が詩的に生み出したものと斷すべきものであります。我國民は分析的な能力に於て西洋民族には劣つてゐたが爲めに科學の發達は見るべきものがなかつたのであります。藝術の特殊な發達を古くからして來てゐるのは前申した如く直觀力に秀でてゐたが爲めであります。私は茲で日本民謡の王ともいふべき常陸海岸大洗の磯節の歌詞を引例いたしますが……。

ゆらり／＼と寄せてはかへす

浪の脊に乗る秋の月

直觀力に秀でた我無名の民謡詩人は、かやうに自然に對して素樸さ純真さを求め、人生自然の本性を本然を捉へようとしてゐるのであります。この民謡の歌詞をば我國體の本源にあてはめることも出来

るのであります——真如の名月を戴く大洋の浪は月夜に活動を續けます、時に狂瀾怒濤ともなれば静平鏡の如き姿ともなる、されど不斷に奏する浪のリズムに一定不變の調子の嚴存する限り、名月の位置は萬代不易であります。我があらゆる道と稱せられたもの歌道、俳道、茶道、武道に至るまで、苟くも一道の名人といはれた人々の心奥に共通したものは、天地自然の本然の性に復歸するといふことであつたのであります。民謡道に於ても之は同様であります。されば我々は、この自然の精髓——これは自然の法則と申しませうか——音樂的には一定の調子、私は之を定調と申して置きますが、この自然の定調を人事の中に探つね求めて、常に變らざれども常に新たなる生活の希望を持つて行くことであります。この夏季大學にも定調がなければ混亂に陥る、警察官諸君の生活にも定調がなければならぬ。國家の政治に定調が失はれた時に彼の松島遊廓事件と云ふが如き腐敗墮落が醸生する。經濟界が定調を外した時にモラトリアムとなり銀行の休業となる。銀座街道を練り歩いて風紀を紊るモダンボーイ、モダンガールの出現したのも現代社會生活の或る一部に定調が失はれた結果に外ならない。憂國慨世の識者は斯かる世相に當面した時、之は物質文明の破綻であり資本主義制度の行詰りであると曰ふ。この行詰りを展開する道は何處にあるかと申しますれば、國民の精神的總動員によつて人々は道々に據るところの定調に復歸しなければならぬ、其處に初めて展開の道が見出されるのであります。

す。私は斯く考へて來ますと、日本民謡の帶ぶる使命の重要さを思ふのであります。

以上申上げたところは民謡の總論でありまして、これ位に價值づけて置きませぬと、民謡を唄ふ人も又これを聴く人も軽く扱ひたがるのであります。大體以上を以て日本民謡の本質がわかりのことであらうと思ひます。でこれから各論にはいつてお話し致します。

我國のよき民謡について、その發生から現在に至つた變遷の形式によつて三大別し、その代表的民謡の特質、持味などについて斷片的に獨自の見解を下さうと思ひます。

- (一) 民謡本來の生立を爲して中途都會情調をとりいれ小唄化したるもの——博多節。
- (二) 幾時代の洗練を経てます——民謡本來の特質を發揮するもの——磯節、相馬節。
- (三) 山に生れて海に育てられ、普遍性を發揮して音樂藝術の域に進みつゝあるもの——追分節。

民謡の小唄化と商取引

私が博多節を初めて聴いたのは今から十年前であります。追分節の如く悲調味を帯びず、磯節の如き豪壯味がなくとも、軽く流れて優婉嬌々の曲節は、私をして見ぬ博多の土地柄をば、直感的に酒に良し女に佳しといふ歡樂境を描かしたものである。そしてこれは立派な小唄である、三味線の合の手に歌の基調が置かれてあると思つた、たゞ曲節にどこやら力のこもつたところがあるので、もとは船

頭の船唄であらうと思つたのである。後年その地に行つて見て、私の想察の通りであることを知りました。名産博多織の商取引の酒席では民謡は育たない、博多織の廣告の爲めには今の小唄化した博多節の方が効能がある、東北地方の小都會の婦女子には、博多節を知つて博多帯に憧れるものが多い事實を知つて居ります。

博多帯締め、筑前しほり、筑前博多の帯しめて、歩む姿は柳腰。

この歌をきけば、どんなに恰構かつかまのわるい姿の女でも博多帯をしめることによつて、柳腰に見られもしようかと思ふのが女心のいちらしさでもありません。すでに小唄化したる博多節について、本場の博多節と東京の博多節とは違つてゐるとか、本場でも人によつて曲節が異なることを氣に病む人がありますが、これは違つて來るのが當然のことです。民謡本來の定調を失つた歌である。聲自慢の唄上手が現はれるたびに三味締さんみじの合の手も種々とさわりが多くなるわけである。博多節と同じ運命に在るものとして安來節をあげる。民謡の歴史傳説の研究家として知らる、藤澤術彦氏は安來節について恠う云つて居る、「安來節は云ふ迄もなく出雲在來の船頭唄に作意された近來の流行小唄である。だから家元といふものを持つてゐる。「船すくひ」といふ舞踊がこれに伴ひ、今、全く固有の船唄たるべき節調の本質をなくし、只その唄の形式をのみ似せてゐる。従つて安來節には日本海の波を偲す特異

な何物もなく民謡らしい味さへ無い」と、私は同感である。但し安來節は民謡の定調を外さず歌へば、なか／＼よき民謡として愛誦するに足る歌詞をもつて居ります。

海の民謡と代表的諸節

我國が有する海の民謡の中で最もすぐれたものとしては私は磯節を推す。其の歌詞は高尚で豪快、其の曲節は大洋の姿をそのまゝに豪宕にして壯快、綾なすに松籟の風韻を以てして優婉である。よく民謡研究家のいふことであるが、「我國の民謡は男女間の情事を歌つたものが多い」と、これには私は反對である。戀愛至上主義者は別問題であるが、よき民謡の代表歌詞を誦して見ればすぐわかることでもあります。勿論情事を歌つたものもないではないが、それ等はいつの間にか民謡の圏内を逐はれて、流行唄か俗謡の仲間入をして居るものが多い。最も伊豆の大島節の代表歌「わたしや大島御神火そだち、胸にけむりは絶えやせぬ」といふ南國の乙女の純情的な歌の如きは例外であります。よき民謡の主題となつたものは郷土の禮讃か生活そのまゝの思想感情を歌つたものが多い。磯節の代表歌の如きは之がよき例であります。「磯で名所は大洗さまよ、松が見えますほの／＼と、松がネ見えます、イッ、ほの／＼と。」又は「沖に鯉の瀬の立つ時は、四寸厚味の櫓がしなふ、四寸ネ、厚味の、イッ、櫓がしなふ。」私は十年來、一年二度位は大衆の前で民謡の實演をやつて來ましたが、各地の諸種の民謡

を歌つてもさまでに自らは感じないが、この磯節を歌ふ時ばかりは情懷しきりに動くものがある、腹一杯の聲でうたつた後の氣分の壯快さは筆舌の盡すところでない。今年の夏も大洗夏季大學に招かれて同地の旅館に一泊したので、大平洋の浪の音に和して心ゆくまで歌ふことが出来ました。この磯節ばかりは將來とても永久に民謡の本質を失はず、而も常に變らざれど常に新しい生命を持續して行くことであらうと思ひます。これまでに幾度か磯節は都會の人々によつて弄ばれ、新磯節などいふ俗謠も生じて、一時は本場の磯節を凌ぐほどの流行を來たしたが、いつの間にか時代の流れに押し流されて、今日では座敷唄として藝妓などが磯節の真似事を歌ふ外、民謡磯節を傷つけるものがなくなつたのが何よりである。民謡研究家松川二道氏が其著「民謡をたづねて」の中に磯節について、「これを彼の水戸を離れて東へ三里、大洗に行つて名人旨安中のさびのある咽喉で聴いては、實際何とも云へない、味がある。彼れは全く氣分で歌ふ男である。氣が向かなければ、いか程金を積んでも、彼は決して歌はない。情懷一たび動けば、一子守兒に促されても彼れは怡々として歌ふ、確かに、かれの如きは一個野生の藝術家である」と非常の賞め方をしてゐるが、實は安中は磯節の名人ではない、安中の歌ひ手は東京の藝妓にも居る。安中の磯節と藝妓の磯節と差等があれば、それは程度の差にして性質——本質的の差等ではない。最も安中も震災前、彼が未だ東京の舞臺に現はれぬ前の磯節は、私

も感服して聴いたことがあります。今夏一泊の旅に彼を招んで久振に聴いたが彼は歌はざる前に「ホ、リ」として「磯節は落ちました、聞かせられなくなつた——年齢はとりたくねエ」と愚痴を零しましたが、安中はまだ五十一歳、齡で藝は落ちぬのだが、一座敷二圓の祝儀を貰ひ、酒に酔ふては歌ふのだから藝人の小唄にならざるを得ないのであります。私は安中に失望したが、幸ひにも磯節の名人の養成指導者に會つて名人にはどうかと思ひますが上手にはなれる歌ひ手を發見したのが何よりの土産でありました。それは大洗の小林信男君といふ青年が、熱心な郷土民謡の保護者で、從來知名の士が大洗を訪ぬることあれば何を措いても、安中の磯節を御馳走するのがこの青年の務めであつたが、民謡に理解ある程の人は安中の磯節に感心して呉れないのに業を煮やしたわけでもありませんが、それからは安中の外に歌ひ手を探してゐたところ漸く年若い聲のいゝ男を見つけたといふので、幸ひ私に聴いて呉れとある。その座敷には私の外に同じく夏季大學の講師として來られた春山文學博士が、謹嚴な態度で聴手のお相伴をされて居ります。聽て歌ひ手が來る、座るが早いか一曲をうたふ、清澄にして張りのある美聲、男性の聲としては稀に持つ歌聲である。惜しいことには此男、磯節の本質を知らずして只管に曲節の型を安中に真似たものと見え、安中の持味といふべき特異な癖を真似ることに腐心して居るらしい。諸君の中には磯節の本場の方もお出でせうが、アノ磯節を歌ふ時は發聲を自然

にしないと雄大な曲節を現はすことが出来ないものであります。安中の磯節を齒を嚙んで口の中で聲を調節するから小座敷唄に化したのです。それをば聲量の有餘る此の若者が真似るのである、歌は不自然にして力がない、即ち未だ磯節の定調を掴み得ないのであります。この點を注意して私も二つ三つ歌つてやりました。この時、春山博士の曰はれたことでありますが「これは氣合の問題である、氣合のこもらぬ唄は何となく物足らぬ……これは教はるべきものでなく自得すべきものである。」と、春山博士の所謂氣合は、私のいふ定調を掴んだ者の歌聲に於て初めて發することが出来るのであります。慙うなりますと、民謡の歌ひ手は頭が問題となつて來るのであります、私が民謡の總論を管々しく述べますも、民謡の本質を理解する上に於て何程かの準備に資したい爲めであります。悲しいことには此の大洗の磯節名人志願の若者は、これ等の豫備智識などに耳を傾けず、歌ひ了るや彼の男は申します「私も早く東京のラヂオで放送したいんで御座います……安中さんが今日羽織着て氣樂な暮しが出來ますのも、一度東京の檜舞臺で歌つてから名人になつたんですから……私は一層のことにラヂオ放送で名人になりたいので……」とのことであります。ラヂオなどで民謡の氣合や定調が聴かれるものではない。今日東京の放送局でも可なり多くの各地民謡を放送して居るのが、其の眞によき民謡をば可なり出來て居る歌ひ手によつて放送されても大概は失敗して居ります。これは當然のことで、大

洋の眞只中や大平原やで歌つてこそ民謡本來の特殊を表現することが出来るのです。アノ放送局内の不自然な空氣や立働く人々の妙に氣忙しい言動や特異な様式の環境では放送種目も複雑の中に協和音の美を持つ西洋音樂ならばふさはしいものでありませう。が、一つの音の繊細な旋律の美を生命とする日本音樂の放送には不向の場所であらうと思ふ。況んや唄そのものが本來器樂の伴奏を必要とせず自然のリズムを伴奏として素樸な純眞さを求めつゝ生立つた日本民謡の放送に就いては、少くも民謡の價値が半減されるものと思はねばなりません。これを慮はずして磯節の名人の卵はラヂオ放送を専一の念願として居るのであります。彼の男を紹介した小林青年が別れに臨んで私に向ひ「どうでせうか？彼の男……磯節の名人になれるでせうか？」卒直に訊いたものです。私はそれに答ふるよりも先づ春山博士の顔色を伺ひました、春山博士も自然に出て來る笑顔を私に向けて、そして異口同音に「頭の問題ですネ……」小林青年は「頭の方は私が指導して行きますから來年、も一度聽いて下さい」と熱心なものでありました。そしてお互に笑ひ合つて大洗の人々と別れたことであります。何處の地方へ行つても、民謡の歌ひ手に頭がなく、頭の出來て人には歌へないといふ悩みがあります。磯節の話はこの邊で結びまして終りに磯節の代表的歌詞を述べまして參考に供します。

○磯で名所は、大洗さまよ、

松が見えます、ほのぼのと。

○山で赤いのは、躑躅に椿、

咲いてからまる、藤の花。

これは大洗山の風姿を歌つたもので、大洗山は大洗神社(産土神)の鎮座する楕形の山で、麓は白砂青松、神苑の常磐木は空高く延び之を彩る躑躅、椿、山藤など妍を競ふて居ります。この神苑の森こそは郷土民が生活の目標として絶大の信仰をかたむけ、愛敬の念凝つて之が無限の力を禮讃したものであります。

○三十五反の、帆をまき揚げて、

行くよ仙臺、石の巻。

○沖で鯉の、せのたつ時は、

四寸あつみの、櫓が棹る。

○舟底枕で、ねる濱千鳥、

寒いぢやないかい、波の上。

○浪が逆巻く、外海育ち、

腕にやためしもの、すぢの鐵。

○水戸を離れて、東へ三里、

浪の花散る、大洗。

殖民政策と民謡の利用

相馬節は日本民謡の中で最も古い傳統に洗練され、特色のはつきりした民謡であります。私が相馬節を歌ふ時、いつも今は亡き母を憶ふのであります。私の母は美しい聲の持主でよく民謡——特にこの相馬節をうたつては子守唄に代へたものであります。私の郷里は仙臺市を南へ五里の手前、鐵道で申せば東北本線と常磐線の分岐點、岩沼町を東へ一里の海岸——玉浦村であります。往昔僧空海が此地海濱の風光明媚を賞で、名づけたのが「玉の浦」でありまして、この玉浦村の人々は目出度い座敷や農作の勞働の折にも、何かにつけ相馬節を歌ひます。私は搖籃の中で民謡をきながら育つたものであります。仙臺には有名な「さんさ時雨」といふ唄がありまして、一般によく歌はれて居りますが、さんさ時雨は民謡ではありません。これは立派な小唄で、伊達政宗が作爲の凱旋歌であります。それですから唄の歌詞を見ても曲節を聴いても自然のリズムを取入れて居らない、つまり土地の色も匂ひもない唄であります。それですから今日では料亭の名物唄となりまして、土地の藝妓の踊りさへつくや

うになつたのであります。そこで仙臺地方の農村では、他藩の民謡ではあるが特色のハツキリとした相馬節が歌はれて居るのであります。「相馬よいとこ(所)木萱もなびく、なびく木萱にホンに花が咲くこの相馬よいとこの相馬は地名でないことは勿論で、相馬地方——小高町、原の町、中村町を中心として現在、毎年七月十一日(昔は舊五月中の申の日)をトして無線電信局の所在地原の町の雲雀ヶ原に於て行はるゝ「野馬追ひ」で有名な舊相馬氏の領地の總稱であります。

相馬氏は平將門から出てゐる、將門は下總國相馬流山に居り、初め相馬小次郎と名乗つてゐた。小次郎の息將國以下子孫は依然下總に住して相馬氏を稱してゐたが、將國五世の孫師國に至つて嗣絶え將門の一門良文の子孫師常が其の後を継ぎ、文治五年頼朝の奥州征伐に従つて軍功を樹て、磐城行方郡太田に築城して下總の國から移住した、時に元弘三年であります。降つて慶長九年利胤の時、更に中村城を築いて移つたのが、今日其の面影を留むる中村城趾であります。相馬藩は斯くて元弘三年より明治初年に至る六百年の間、連綿として相馬氏の所領し居住せる土地である。恁うした領主を戴くことは相馬地方民の一つの誇りでなければならぬ。そこに郷土禮讚の民謡が發達したことも不思議でない。相馬流山節なる民謡は今から七百年以前、相馬藩が下總流山に居城の時代から武道奨勵の爲め何等かの行事の下に流山節なる民謡が歌はれたものと想はれる。それが福島縣下中村町に居城を移し

て以來、元祿の頃より更に一層この流山節が盛んに歌はるゝやうになつたのであります。當初、下總の流山時代の民謡は酒の醸造について硯磨りの勞作につれ歌つたものでありませう。それが相馬藩の年中行事たる野馬追祭の軍歌となり、民謡となり、今日の如く、相馬の人ならば流山節を歌はざるものなきまでに、一種の國歌の如く盛んになつたものと思ふのであります。相馬人にはよく歌はれる流山節ではあるが、其の曲節の餘りにも地方的特質を發揮して居るが爲めに今日尙ほ全國的には磯節程に膾炙されて居らぬ。私は昨年夏、相馬中村町を東へ三里、海水浴場で有名な原釜に開かれた夏季大學に矢張り民謡の講演に参りまして、二十年振で土地の人々が合唱する流山節を聴いたのであります。その折私が感じたこととありますが、私の少年時代に耳慣れた流山節と本場の人々が歌ふ流山節とは、其の曲節に於てどうやら違ひがあるといふことであります。しかしそれは本質的の相違ではなかつたのであります。二十年といふ時代の流れが時代民情の推移を伴ひ、時代民情の推移が必然に民謡の曲節に表現されて、唄の曲節が調子の高低と抑揚の強弱に相違を來たしたまでのこととあります。私が前にも述べました如く、自然の本能性——定調は如何なる變亂を通じても常に一定不變であります。常に變らざれども常に生々の新しさがなければならぬといふことが、この場合、相馬の曲節の相違によく當倣つて居るのであります。恁うしたよき民謡を有する郷土には、頭の出來た

——民謡の理解者であつて保護者であるところの人が居ります。磯節の理解者保護者としては横綱常陸山があつた、豪快一世を風靡するに至らずとも彼常陸山は相撲道の本質に徹した名人でありました。常陸山の存生中は磯節の歌ひ手安中も名人の域に進みつゝあつたのであります。相馬の民謡をして今日の價値あらしめたのも、郷土愛に精進する民謡禮讃者の力でありました。然も相馬の人々はこぞつて民謡の禮讃者であり保護者であるが爲めに、民謡は相馬人の生活要素となつて、今日見るが如き淳風美俗さながらの農村生活を保持して行けるのであります。こゝで私は民謡と農村問題といふやうな政論を述べるつもりはないが、事實相馬の農村には未來永劫、否、民謡流山節が定調を失はざる限り、労働争議とか小作争議とかは發生せぬものと見られて居る。何故か、農村の富の分配が平均されて居るからであります。その富の分配平均は何に據つて行はれたかと申せば、それは天災と民謡のお蔭であります。天明年間大洪水の饑飢は東北一帯を襲つたが、相馬藩は殊に被害甚しく、藩の人口三分の二は餓死し、耕地の全部は土砂に埋められたのであります。その秋、藩の長老に民謡の天才が現はれました。長老は藩の回復を圖るべく、先づ第一に要するものは田畑を耕すところの働く人である如何にして働く人を募集すべきかに思ひ煩つた結果、幾百年間歌はれて來た相馬の民謡流山節を單純な曲節に替えて、これを働く人募集の宣傳歌に作つたのであります。「相馬よいとこ、男と女、麥を搗く

にも一つ白」「相馬よいとこ、女の夜業、男極樂寝て待ちる」恁うした唄をば、顔の綺麗な聲の美しい十八娘に習はして、種々の行商をやらせながら、越後越中富山地方に派遣して歌はしたのであります。この植民政策は圖に當り、越後地方から働き盛りの若者が陸續として相馬へ流れ來り、一年を出でずして人口は饑饉前に倍加するに至りました。そこで藩では之等の移住民を督して荒廢地の區劃整理を完成したる後、耕地田畑を平均に分譲したのであります。夫れ故に働く者であるならば生計の立たぬ道理はない。斯て相馬には富の平均といふことが理論争無しに實現された譯であります。相馬の民謡はさうした歴史的價値をもつて居るが爲めに、相馬の人々にとつては流山節は生活の一要素となつて居るのであらうと思はれます。事實、相馬の人々は機會さへあれば何を措いても流山節の合唱を忘れない。遠來の客を遇する場合に於てもお國自慢の土産にも、郷土風俗人情の紹介にも、相馬の人達は流山節をもつて應酬する。民謡も斯様に其の土地の人々の總體の生活にピッタリとはいはなければ價値がない。

これも私が原釜の夏季大學で感じたことではありますが、私の參りました日は一週間の夏季大學が終了の日でありまして、其の日の午後からは大學の主権者側と土地の有力者とからなる懇親會が催されたのであります。その懇親會もまた民謡郷の人々の催しでなければ味ひ得ない風雅なものであります

たので、私の生涯に忘れ得ぬよき印象となつたのであります。もつともこの懇親會には遠來の客として招待された人が風雅の道に悟入した「道の人」であつたからでもありません。……それは私自身のことではない……俳人青嵐永田秀次郎先生を申したのであります。私はその御相伴を承つたに過ぎない。その懇親會のプログラムは、相馬の名勝松川浦に舟出して遠來の客に所謂十二景を心ゆくまで觀賞させようといふのであります。先づ五艘の舟を醸して五六十人が四艘に分乗する、一艘には松川浦の主といはれる投網の名人が乗込んで先頭をきる。漕ぎ行くまゝに手捌きあざやかな投網振をお目にかけてようといふ趣向であります。私の舟に乗合ひの顔觸は土地の小學中學農學校の校長先生——それもよく見受ける型に倣つた鹿爪らしい教育家ではない、いづれも活々した明るい感じの人ばかり——それに地方政治家、夏季大學の主催者——民謡節が必然的に生んだ野生の哲人——山田忠正氏、それに永田先生であります。この舟遊びはすでに人に於て恵まれて居る。舟の進むにつれて四顧すれば十二景勝、夫々の風姿をもつて私達の眺めに任せては迎へまた送る。やがて舟は浦の半週を描いたころ外海と浦とを劃する小松原の中洲に相前後してつく、一同上陸して白砂青松の間に圓座して、こゝに野趣充溢の酒蔭がひろげられました。肴は投網の名人の漁にかゝる浦の名産尺餘の鱸、鮎等々、之を焼くに松の落葉を焚くなど、詩情此間に湧出する。宴酣にして誰からともなく流山節が歌ひ出され一同手

拍子正しくそれに唱和すれば、濤聲松籟來り和してこゝに自然と人との交響樂が奏でられたのであります。私はこの交響樂を聴いてフト考へたことですが、人々はよき民謡の合唱によつて、秩序と正義との觀念を養成される。正しき調子と不正の調子との間に存する相違は、あらゆる人の世に於ける正しきものと、正しからざるものとの間を劃する相違であるからであります。よく地方などの恂うした宴會では或は亂に終り、或は階級意識が露骨に現はれて、宴席がしらけ渡るといふやうなことに出席しますが、相馬の人々の宴會にはいつも左様なことがないといふことであります。これなども民謡の定調本質を共通する人々の集りであるからです。自由解放時には奔放無碍にして然も優雅典麗、それ等を太く一貫するところの素朴剛健の野調こそは、相馬流山節の本質であり定調であると共に相馬人の共通性たる定調であります。恂うした民謡郷なればこそ彼の原の町の町長——佐藤ひげ郎氏の如き相馬民謡の爲めに生きて來たといつてもよいやうな人によつて、自治體の機能が圓滑に活動を續けられるのであります。佐藤町長ばかりではない。小學校の校長をはじめ中學校女學校農學校の校長先生も皆な相馬民謡の理解者で流山節の歌ひ手である。それも酒席で酔ひに乗じて歌ふやうなものではない。酒を飲まなければ歌へないやうな唄は民謡ではないのであります。私は相馬の人達が擧つて流山節を歌ふ如く、我日本國民が擧つて歌へるやうな民謡の生れることを心から祈るものであります。

相馬民謡の禮讃の餘り、話は何うやら混雜して参りましたが、此邊で講演の定調に復歸して、流山節の代表歌を二三述べまして次の追分節に移ります。

○相馬流山、習ひたか御座れ、

五月中の申、お野馬追ひ。

○相馬相馬と、木萱も靡く、

靡く木萱に、花が咲く。

○向ひ小山の、がんげの躑躅、

およびなれば、見てくらす。

○姉さ何處へ行く、こつこけこざるを手にさげて、

河原柳にどせうとり。

○炭も昔は、山路の櫻、

つゝむ俵は野のすゝき。

○花ちや月ちやと、浮かれた二人、

きまりが悪いぢや、ないかいな。

民謡の普遍性と追分節の変遷

追分節は信州淺間山麓の古驛追分に生れました。追分の宿は御承知の如く、北國街道と中山道の分岐点であります。一代の文豪徳富蘆花は淺間山の雄大さを讃して「爾の頭の圓らかに、うねりの豊かに根ばりの大に、ゆつたりと千秋の波を大空にうたす姿の圭角磨き盡して弱氣を銜はぬ、偉人の姿！」と曰ふてありますが、この雄大な山麓の高原に立つて千古の噴煙に直面した時、我無名の民謡詩人とても歌はずに止むものではない。

小諸出て見ろ、淺間の山は、

今朝も煙りが、三すぢ立つ。

歌の形は平凡でもあらう、表現も技巧的でないともいへよう。併しこの歌詞が一度、沈痛悲壯の曲節によつて表現された追分節を聴く時に、我々の靈を捉へて否應なしに引ずつて行く或る力を感ずるのであります。そこにも直觀的に自然の本性を掴んだ民謡の定調が見出されます。それは古池に飛込む蛙の水音に耳を清まして自然の本然に徹しようとした芭蕉の心境に共通するものであります。こゝでまた私自身のことを吹聴するやうになりますが、追分節といへば私は少年時代を想ひ起すのであります。私は今日では政治に身を處する覺悟をもつて居りますが、少年時代には彼の磯節の「三

十五反の帆を捲きあげて行くよ仙臺石巻」の石巻港の水産學校を卒業して居ります。この學校では本科二年生となれば夏の休みを利用して鯉漁の實習がある。實習船の乗組員はいづれも濱育ちの漁夫だが、その中に美しい聲の人が居つて（鯉漁船には必ず聲自慢の船頭が乗る）、船が沖合遙かに漕ぎ出て鯉群來の合圖の旗が橋頭に掲げられると、この美聲の漁夫が舳に立つて鯉群歓迎の歌をうたひます。それは恰も鹿の遠吠えを聞くが如く、一種の悲調を帯びた曲節で「遠い〜」と繰返して鯉群を呼ぶ歌なのである。そして大漁をして港をさして追手風に帆をはらまして、歸へる船路の折には、この船頭衆は追分節、磯節、濱唄など、あらんかぎりの民謡をうたつて聞かすのである。私はこの學校を卒業いたしましたして、學術的には立派な水産學講師でありましたが、生魚を取扱ふことが嫌ひだったので水産家たるの資格に缺けてゐたのであります、併し民謡の禮讃者たるの資格は具備したわけでありました。それから二十年ばかりを私は東京で生活して居ります。どうもこの都會生活は私たちのやうな田舎育ちの人間にとつて甚だ眼まぐろしさを感せしめる、眼まぐろしいばかりでなく、混亂そのもの、やうな亂雜極まる都會の音響は、私たちの中樞神經を混亂するものであります。で私はこの混亂の巷に立て、一かどの哲學思想家を氣取つて社會生活苦の解脱、解放、新生の創造へと精神努力を續けて來ましたが、今日未だ混惑と疲勞から全然脱けきれずに居るものであります。幸ひにも私の都會生

には、あらゆる生活を通じて民謡特に追分節が道づれでありましたから、時に疲勞と混惑に困憊することがあつても、民謡の定調は自然の本性は、隨時隨所に私の精魂に整調を與へ新に躍進の道へと奮起せしめたのであります。近頃は追分節も東京の民謡の如く都會人に歌はるゝやうになりましたが、私が東京へ出て來た當時は追分節といへば、路傍に蹲つて行人の憐みを乞ふ零落者の唄——乞食唄など、いはれたものであります。それが今日では、聲樂の藤原義江が箱根八里は……の馬子唄を歌へば一流新聞が筆を揃へて「我等のテナー藤原氏民謡追分節を歌ふ。」など、書立てるやうになりました。私は追分節の變遷を思ふ時そこには時代の流れ世相の推移といふことが考へられるのであります。追分節が斯様に都會人に愛唱され、音樂藝術の域に進まんとするに至つたのは、追分節の本質定調が普遍性を多分に有つてゐたからであります。其發生の地が北國筋と中國筋との岐れ路であることが地理的に惠まれて居ります。其の曲節は山の自然と海の自然とから定調をとりいれて居ります。それが普遍性の基調を爲して山の人も海の人も歌はれる好運に惠まれたのであります。然し追分節が東京のやうな都會に於て今日の如く愛唱されるやうになつたのは、矢張名人上手の民謡禮讃者が追分節に對する理解と保護の努力があつたからであります。こゝで私は尺八の名人後藤桃水を憶ひ出すのであります。桃水が一竿の尺八に思ひをこめて靈妙の曲を奏する時、彼は自らの竹の音に心耳を澄して

天地の幽玄を悟らうとする態度がありました。桃水は震災前迄、東京市神田區猿樂町に居を構へ、前後三十年間民謡道と尺八道の精進に努力した人で、其間清貧に終始して名利を顧みず、時に米鹽の賣に缺くことあれば、虚無僧姿に身をやつして東京市街を托鉢したものであります。民謡研究の爲めには日本全國津々浦々、民謡のあるところは必ず探つね尺八に曲節をうつして研磨止むことがなかつたとりわけ追分節に至つては、彼の故郷松島灣の外海に孤立する野蒜村の出島に籠つて寒中修行、追分節一萬曲を吹奏すること三年に及び、大洋の浪のリズムの千變萬化を徹して自然の本性に復歸し、自らの竹の音色の外なる音色を出すに至つたのであります。私は之まで各地の名人上手と稱する追分節の尺八曲を聴いたが、桃水の尺八の様に人の靈をつかむほどのものを聴いたことがないのであります。現在東京市内だけでも追分節の尺八吹奏者は可なり多くありませうが、其中でも上手といはれる程の人は直接間接に桃水の指導を受けて居るのであります。尺八に限らず、追分節の歌手として知られた人々——見砂東樂、三島一聲、三浦爲七郎、山下眞潮などいづれも一度は桃水の尺八によつて洗練を経たものであります。併し之等の人々は遂に上手に唄を歌ふほどのところで行詰つて居る。悠うした人達が行詰つて来ると、新内入り追分節、浪花節入り追分節等々、追分節をして流行唄や俗謡に引下さうと骨を折つてゐるのであります。追分節は前にも述べました通り信州淺間山麓の馬子唄が本元であります。

りまして、それが越後の日本海の浪に育てられて越後追分節となり、越後船頭衆によつて北海道松前に移されて松前追分節に成長し、其處で農時代の洗練を受け江差追分節となつて東京に流れ来り、箱根山麓の馬子唄や伊豆地方の船唄などをとりいれて、今日では東京が追分節の本場なるかに歌はれるようになつたのであります。斯て追分節は一方に於て作曲家の手にかけられ、ピアノ伴奏で聲樂家が歌ふやうになりました其の名も新らしく「民謡演唄」となり、音樂藝術の域にまで進められたのであります。

馬子唄代表歌

○西は追分、東は關所、

せめて樹形(樹形を時と歌ふもある)茶屋までも。

○確水峠の權現様は、

わしが爲めには守り神。

越後追分代表歌

○北山しぐれて、越後は雪か、

向ふに見えるは、佐渡ヶ島。

舟は新造で船頭乗は若いよ、

追手に帆をあげ初のぼり。(前唄)

○雄島小島のあひ通る船は、

江差通ひか、なつかしや。(本唄)

松前追分代表歌

○松前は昆布で屋根ふく細布でしめる、

雨の降るたび、だしが出る。

○帯も十勝で其まゝ根室、

落石涙は幌泉。

江差追分代表歌

○忍路高島及びもないが、

せめて歌棄磯谷まで。

○雪に叩かれ、あらしにもまれ、

苦勞して咲く寒椿。

以上挙げました代表的歌詞の源起や傳説には、なか／＼面白いものがあるのですが省略いたします。なほまた、追分節の變遷徑路は馬子唄から越後、松前、江差と順々に歌ひ分けて行きますと、夫々の曲節により特質がハッキリとわかります。で私の氣分がよかつたら最後の實演に於て歌ひ分けることにいたします。

自然の法則と國民生活の基調

結論に入りました私は、民謡の基調を爲すところの自然の法則——定調は純真そのものであり、人間は純真を生活の基調となして希望が沸き理想に精進するものであること確信致しまして、民謡と國民生活に就て述べたいと思ひます。昨年の夏、東京放送局で試みた各國の民謡放送は、種々の方面に於て私達の生活に參考資料となつたことを感謝して居ります。その時の民謡の實演放送者は何れも各國の大使館公使館の書記官でありました。今もし我國の駐外大使館公使館なりの書記官諸公が、その駐在國の放送局から日本民謡の實演放送をお願ひいたしますとどうであらうか、恐らくは一人の實演者も見出すことが出来なからうと思はれます。國民性や時代民情時代精神を考察する上に於て重要な地位を占むる民謡を知らずして、外交の事に當るなどは聊か押しが強過ぎはせぬかと思ふのであります。この夏季大學の主たる目的は警察の民衆化にあると承りましたが、警察の民衆化とい

ふことは、警察は民衆と共に立つとの明確な意識が警察官並に民衆の頭に徹することであると思ひます。「共に立つ」或は「共に在る」といふことの前に、兩者の間に共通する理解がなければならぬ、理解あるところに同情が起るのであります。警察官といふものは何か特別な人間であつて民衆に接するに同情がない、理解がないといふやうなことを私たちは屢々耳にいたします。それは私にいはしむれば警察官にさうした事がありとするならば、その生活様式が必然に齟らすところの「うるほひ」を缺くからであらうと思ふ。こゝにも亦た民衆藝術である民謡に對して理解をもつことは諸君にとつても意義あることとなるのであります。私が近き將來に國務大臣にでもなりましたならば、何を措いても内務か文部かに民謡局を新設して彼の伊太利の如く國民の年中行事として民謡祭を舉行する位の仕事は致す覺悟を有して居りますが、これが實現は餘り當にもならぬことでありますから、それまではお互に日本民謡に就て理解と同情とをもつて、民謡の天才の出現することに力を盡すこととてあります。今や我國は政治に、經濟に思想にすべて行詰りを來たして居ります。國民生活は定調を失ひ不純、混亂を來して希望を失はんとして居ります。私は斯かる秋に、人事の中に自然の法則を見出して國民全體の靈を確乎と掴んで、國民生活に定調を與へて呉れる處の、民謡道の偉人の來るを待望むものであります。此邊で講演を結びまして、博多節、磯節、相馬節、追分節の中から各代表歌一首宛を實演致します。

科 外

挨拶に代へて

衆議院議員
前警務委員長 本 田 義 成

御來場の諸君に一寸申し上げます、私は警視廳に深い關係をもつて居りますもので。本日のお催しの講師ではございません。がこの計劃が非常によろしいと云ふことで私は御賛成申しあげたのであります。

御賛成申しあげた主意は、警察官として時代常識涵養の上から缺くべからざる誠に結構な企てであると存じまして御賛成申した次第であります。

私はこの機會を以つて、賛成を申し上げたついでに、皆様に申し上げたいことは、此の警察官と云ふものは非常に重大な任務を帯びてゐて、非常な責任を以つて居るものであります。然るに現今の警

察官の待遇に對して未だ充分でないと言ふことを、私は明らかにしてみたいのであります。私は三十八議會から今日の議會に到るまで毎年警察官待遇改善のことを衆議院に於て述べて居るのであります。警察官は國家の安寧秩序を保證する重大な責任を持つて居るのであつて、この重大な責任を握らせて置き乍ら、之に與ふべき報酬が眞に少い。重大な任務を負はして置き乍ら、日本の制度は全く之に對する義務を果して居ないのであります。

米國紐育などに於ては巡査の奉給が日本の金貨に替へて計算しますると二百圓。英國ロンドンなどは百五十拾圓であります。然るに日本の方は之等の半ばにも足らぬ有様であります。私が警視廳から俸給に関する書類を取り寄せて調べて見ましたところ警視廳の巡査の奉給は全國で一番高給であるかと思つたのに全國の統計より見れば六番目と言ふことになつて居ります。大正五年の米騒動以前に於て貴下方の本給の賞與しょうよと云ふものはよく働いて二十圓で拾二圓、八圓、七圓、六圓、五圓といふ率であつた。それが米騒動の時に一躍最高を百圓にした。之には極力反對したのもあつたが、私は斷乎としてそれを主張したのであります。

海外の巡査の俸給は前述の如く米國が二百圓、英國が百五十圓であります。然るに日本の現今の物は米國の物價よりもずつと騰貴して居りながら俸給は英國ロンドンの警察官の三分の一、ニューヨーク

クの四分の一、之で大いに働かうと云ふことは實に無理な話である、されはと云つて直に日本も三倍に上げると云ふことは困難である、で生活を、中産階級位に置くとして先づ百圓以上にしなければならぬと思ふのであります。

そこで巡査を百圓と云ふことにして、警部補はどうするか、之はニューヨークの警部補が三百五十圓ロンドンが三百圓で日本の警部は百五十圓位にしなければならぬ。只今警部は七十二圓である。これを百五十圓にしなければならぬ。

次は警視である。諸君署長さんになれば大變偉いものだと思ふかもしれないがその本給を見ると百二十圓と云ふところ、新任が百十圓、十年で百五十圓、二十年と心血をそゝいでみれば二百四十圓か二百七十圓位、又諸君の御存知の赤池君なども年俸一千三百圓、赤池君は之をもつて智識階級と交際をして居られました。まづこゝらは月に三百圓を取らなければ署長の顔を全とすることは出来ない。今百五十圓の署長をして居るものが何人居るかと申せば十五人居る。これはどうしても新任の年俸を三千圓にしなければならぬ。私は衆議院の豫算委員會で述べたのである。之で大概生活出来る。本給だけ斯くの如く上げれば良いかと思ふ。

只今申し上げた日本全國五萬四千人の警察官を私の案だけで改善しますと一千二百萬圓になる仲々

大きいです。一千二百萬圓は大金であるから直ちに改善は出来ないと言ふかも知れないが、國家で之位の豫算を念出することはたいして困難ではないのであります。

又方面を變えて、現今貴下方の勤務時間を調べて見ると八時間三部制になつて居る。これは國家の自安維持の上から良くない。

何故良くないかといふと、この三部制になつて居ると云ふことは、朝九時から、午後四時まで、四時から十時まで——と云ふ制度だが何處そこに演説會があるから出て来いとか、やれ事件だとかで、一定の休養時間を失ふ譯になる、であるから十二時制を私は主張するものだ。

それから今一つは警察官の大部分は地方から出て来て腰かけにして時機あらば外に飛ばんとして居ることだ。これは面白からぬ現象で待遇改善の問題と密接なる關係がある。

次に服装である。之も最早や今までの巡査の服装ではいけない。今少し注意し、文化的の服装にしなければならぬ。何處の家でも子供が泣くと、ほらお巡りさんが来るよと云つてダマしたもの、これは東京ばかりでなく日本全國到處に宣傳せられたもので。服装の點に起因してゐるからだ、しかし今日では何事かあれば巡査に聞くと云ふ風にはなつてゐる——でこの意味から申して今日巡査は民衆の味方である。これが文明國の警察官である。斯う云う意味でも服装を改良しなければならぬと思ひ

ます。私は以上に述べました問題に就て常にその改善策を考究して居ります。將來に於ても警察官諸君の幸福と警察界の向上發展の爲めに努力を惜まない覺悟であります。今度警察行政研究会の主催で警察夏期大學が開催され、しかも無料を以て警察官に之を解放し、警察界の向上進展の爲に力を盡されてゐることは眞に結構なことでありまして、私も警察に深い關係をもつて居りますので衷心より賛意を表し挨拶に代へて所感を述べた次第であります。

所 感

聽講生代表 堀 江 米 吉
警視廳警部補

今般警察行政研究会主催に係る警察夏期大學が五日間の日程を以て本講堂に開催せられ之れが講師には各方面の權威者を招聘せられ時代の進運に伴ふ警察官の常識の修養延ては警察民衆化の實現の爲めに盛會裡に茲に閉會の幕を降したるは我國警察界に未だ多く斯る局外者よりの催しを聞かざる所にして其れ丈け其反響の大なるを確信して疑はざるものなり。

今や日に月に進む文化の發達と國民生活の複雑とは一般國民をして必然的に常識の修養を直感せしめたるは識者の辯を俟たずして明瞭なる所なるも殊に警察官の如き複雑多端なる而も國民の實生活に

直に大なる影響を及ぼす國家法令執行の任に當る者に於て其必要なるは多言を要せざるものあり。
然るに往々にして警察官の沒常識と云ふ言葉を聞くは實に遺憾なり然りと雖も何時の時代に於ても
取締る者と取締らるゝものとの間に於ては利害の衝突を來し其の利害觀念より出發する見解の相違は
又已むを得ざる所なるも又一面警察官に常識の缺如せる點ある一證左なり。

抑々警察の民衆化とは温容滋言の内に侵すべからざる威權を保持し即ち一方に劍を持ち同時に反對
方面に玉を持つ氣分ならざるべからざるものと信ず。

さは言へ我等は徒らに民衆の不理解を責むるに急なる事なり、平素に於て自己の常識修養に努るは
勿論なるも殊に今回の如き局外者よりの應援を一轉換期となし之が涵養に最善を臻さざるべからず。
最後に本講習に對する希望を一言せんに、我々警察官の常識の必要なる事は前述の如くなるも、吾
人は繁劇なる職務を有する關係上其の機會に乏しく爲めに社會百般の現象に對し其の概念を得る事さ
へも至難の業なり。故に今回の如き催しは實に警察官常識の修養上絶好の機會たるを信じて疑はざる
所なり。希くは毎年一回位而も警察官の執行職務上必須事項を選択せられ之れが開催せられん事を望
むものなり。

終りに臨んで主催者側に對し厚く感謝の意を表する次第なり。

(終)

昭和二年十一月十五日發行

非賣品

不許複製

警察行政研究會

警察夏期大學編輯局

編者 吉良昌澄

發行者 馬場新

東京市本郷區駒込林町二〇八

印刷者 堀部末男

東京市神田區今川小路一ノ四

發行所

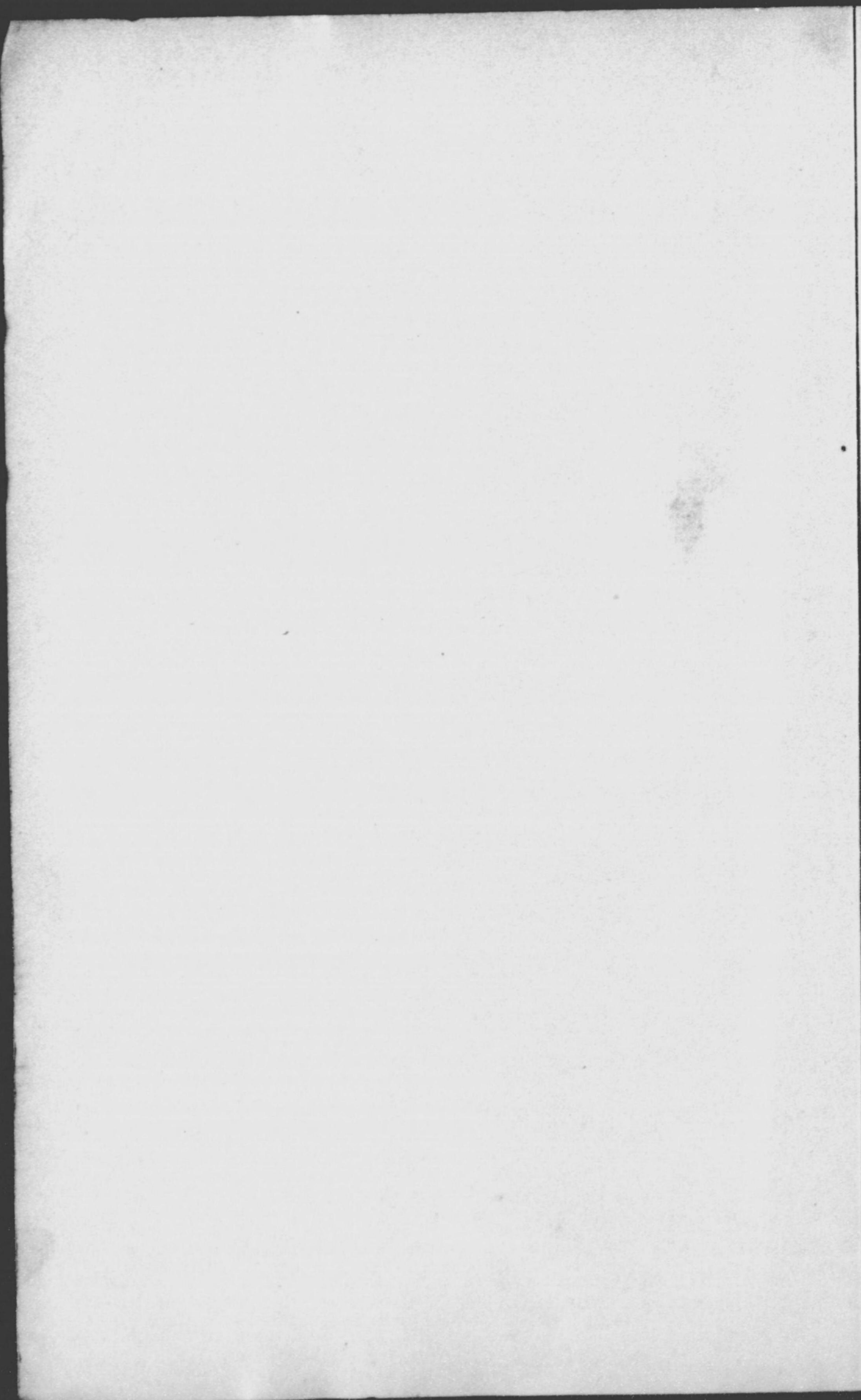
東京市神田區美土代町一ノ卅一
電話 神田 六二九、三〇八、三〇九

警察行政研究會

頒布所

東京市本郷區駒込林町二〇八
振替口座東京七七一二九番

第一回警察夏期大學假事務所



此書係由... 印刷... 內容... 凡欲... 購買... 者... 請向... 經銷... 處... 洽... 詢... 或... 函... 購... 均... 可... 也... 此... 佈... 宣... 統... 三... 年... 十... 月... 十... 日... 廣... 東... 省... 廣... 州... 廣... 益... 印... 書... 館... 印... 行

廣益印書館

廣州

